2026 年 11 月 17 日
シスメックス株式会社

【発表概要】

第 45 回日本認知症学会学術集会 第 41 回日本老年精神医学会 合同大会

全自動免疫測定装置によって測定された認知症患者の血漿 p-tau217 と p-tau205 の相関評価

発表者	田中 葵[1]、石木 健吾[1]、勝亦 柚衣[2]、佐藤 伊都子[2]、森本 耕平[2]、保科 佑樹[1]、三浦 雅央[1]、中村 恵宣[2]、松岡 広[2]、岩永 茂樹[1] [1] シスメックス株式会社 中央研究所 [2] 神戸大学医学部附属病院バイオリソースセンター
発表概要	**背景** 脳内のアミロイド病理の推定や、タウ蓄積の推定のバイオマーカーとして、血漿 p-tau217 および p-tau205 が注目されている。しかし、これら血漿中バイオマーカー間の関係性は十分に検討されていない。本研究では、認知症患者における p-tau205 と p-tau217 の関係性を解析し、その分布特性および両者の相補的意義を検討した。 **方法** 認知症患者 21 例の血漿について、全自動免疫測定装置 HISCL™-5000 を用いて p-tau205 および p-tau217 を測定し、両者の相関および分布特性を評価した。 **結果** p-tau205とp-tau217には有意な相関が認められた（r_s=0.71, p＜0.01）。一方で、その分布は単純な線形関係を示さず、p-tau217 の低値域と高値域では、p-tau205 はそれぞれ低値と高値に収束し、p-tau217 の中間域では、p-tau205 は低値から高値に分散した。 **結論** 今回観察された分布特性は、血漿中の p-tau217 と p-tau205 が異なる病理を反映している可能性を示唆しており、脳内病理学的変化の異なる側面または進行段階に関連している可能性が考えられる。本結果より、p-tau205 は p-tau217 では捉えられない病態変化の評価に寄与する可能性があり、両者の補完的な活用が有効であると考えられる。
セッション	tau 関連-4 / P424

シスメックス株式会社
神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 〒651-0073
Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524